



かみさと
 議会

6月定例会・7月臨時会
の審議状況
上田県知事を講師に迎えて
6月定例会一般質問に7人

この町で、ずっと。

埼玉県の北の玄関口
神保原駅 今年で開業120年

76

第3回
6月
定例会

6月5日～9日

6月定例会は、6月5日に開会され、議員7名の一般質問と町長提出議案17件、請願他を審議して9日に閉会しました。6月定例会で審議された内容をお知らせします。



■中央・長幡保育園改築事業にかかる基本設計業務委託料を含む一般会計補正予算を可決
■農業委員14名の任命に同意

◆条例関係◆

議案第33号
上里町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について

要旨 児童福祉法の一部改正を受け、人事院規則の改正に伴う、育児休業の承認に係る特別の事情について、所要の改正をするものです。

原案可決

議案第34号
上里町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について

要旨 上里町の小中学校の学校運営改善、児童生徒の健全育成を図ることを目的として学校

運営協議会を設置し、保護者及び地域住民等の学校運営の参画や学校運営への支援・協力を促進する学校運営協議会委員を配置するために改正するものです。

原案可決

◆補正予算◆

議案第49号
平成29年度一般会計補正予算(第2号)

概要 歳入歳出それぞれ3,999万5,000円を追加し、予算総額を歳入歳出それぞれ84億522万2,000円とするものです。主な補正内容は次のとおりです。

原案可決

平成29年度

補正予算(第2号)

主な事業

・中央・長幡保育園改築事業
583万2千円

中央・長幡保育園改築事業にかかる基本設計業務委託料

・民間保育所整備事業
2493万円

民間保育所整備事業にかかる保育所等整備交付金等の増額

・土地改良推進事業
599万7千円

測量設計委託料、農道整備工事費の増額

・教育委員会事務局運営事業
101万7千円

コミュニティ・スクールの導入に伴う委員報酬、消耗品費、通信運搬費等の増額

◆ 人事 ◆

議案第35号
48号
農業委員会委員の任命に
つき同意を求めること
について

概要 現農業委員会委員の任期が、平成29年7月19日をもって任期満了となるため、農業委員会等に関する法律第8条第1項の規定により、新しい農業委員会委員を任命したいので、議会の同意を求めるものです。

同意

川田貴之氏(藤木戸)
敷地友好氏(忍保)
藤島廣二氏(神保原町)
並木利明氏(勅使河原)
根岸好行氏(神保原町)
青木 猛氏(大御堂)
板垣幸一氏(金久保)
和田山玉彦氏(七本木)
吉澤英彰氏(勅使河原)
紙田晴夫氏(長浜)
松本保夫氏(三町)
入 文隆氏(五明)
黒澤順子氏(嘉美)
松本初美氏(七本木)

◆ 請 願 ◆

請願第6号
「農業者戸別所得補償制度」の復活を求める請願
について

採択

◆ 意見書 ◆

意見書第11号
「農業者戸別所得補償制度」の復活を求める意見
書について

原案可決

◆ その他 ◆

議長不信任の動議

要旨 納谷克俊議長に対する不信任案を議決するものです。

否決

第4回7月臨時会

7月18日

◆ 補正予算 ◆

議案第50号
平成29年度一般会計補正
予算(第3号)

概要 歳入歳出それぞれ54万円を追加し、予算総額を歳入歳出それぞれ84億576万2,000円とするものです。

・訴訟事務委託料

54万円

原案可決

◆ 人事 ◆

議案第51号
公平委員会委員の選任に
ついて

概要 委員である成田國廣氏が平成29年7月25日をもって任期満了となるため、後任に大字帯刀の塚越光男氏を選任するものです。

同意

議案第52号
固定資産評価審査委員会
委員の選任について

概要 委員である松本勝房氏が平成29年7月21日をもって任期満了となるため、後任に大字金久保の阿部甚一氏を選任するものです。

同意

「議会だより」に対するご意見
質問等がございましたら、議会事
務局までご要望をお寄せ下さい。

より良い議会だより作成の為の
参考にさせていただきます。



児玉郡町議会議長会主催による平成29年度児玉郡町議会議員前期研修会が、 8月2日(水)に上里町役場4階「大会議室」で開催されました！



今回の研修会の参加者は、児玉郡町議会議員38名に加え、本庄市議会議員15名の合計53名と児玉郡各町議会の事務局職員7名の参加と来賓として埼玉県議会議員2名、児玉郡内各町長、そして本庄市長と本庄市議会議長に参加を頂きました。

植原育雄

研修会は、埼玉県知事の上田清司氏を講師に「埼玉県の高齢化問題〜2025年問題〜」をテーマに講演が行われました。

「三つの目」

上田県知事の「三つの目」、最初に「鳥の目」ですが、大所高所から広い視野で物事全体を見つめて行く事。次に「虫の目」ですが、足元を見つめ直す事、そして「魚の目」ですが、魚はソナー機能がすぐれています。微妙な時代の変化を見逃さない事、つまり時代の流れを見極める目が大事です。

「埼玉県の歴史」

古代において県内には40基ほどの古墳があったようですが、戦争中に食料を調達するために沼地等を埋

めたりしたので9基ほどになってしまった。また中世の武蔵野国の埼玉県は当時から「道」に関しては中心部であった。鎌倉街道には5つの道があり、東海道 水戸に抜ける道（現在は常磐道）・宇都宮に抜ける道（奥州街道や日光街道）・中山道・飯能から秩父に抜ける道、そして江戸時代に甲州街道が加わりました。

「産業と人口の流れ」

明治20年に埼玉県の人口は、全国で12位の105万人、1番目は新潟県。なぜ新潟県なのかといえば、米の時代で稲作農業が一番人を雇える



研修に先立ち、議長会の役員として会の発展と地方自治の推進に尽力されました前神川町議会議員長の小井戸英夫氏と同町議会副議長長の赤羽奈保子氏並びに前美里町議会議員長の櫻沢克幸氏と同町議会副議長長の橋場倅男氏の4名が表彰されました。

来たる!!

上田清司埼玉県知事



74歳まで元気で働く
生産年齢人口は1995年に70%
でしたが、2040年には世界最少で
52〜53%になってしまいます。残りの

2番目となっています。
お金の流れは東京に次いで埼玉県は
2番目となっています。

現在は陸送の時代で作った物を集
めて分類して配送する。首都圏で人
口の多い埼玉県が有利で関越道や東
北道が利用できる埼玉県に物流拠点
が作られています。また埼玉県に本
社機能を移す会社も増えています。

時代でした。当時の新潟県の人口は
166万人で東京を抜いていまし
た。1980年代は、港で扱うコンテ
ナの世界ランキングで4位に神戸港、
横浜は13位。2015年では神戸港は
57位で横浜は54位、東京は29位。産業
が変わると人口も変わってきます。

世代は若い人か高齢者です。しかし
日本は世界一の健康長寿国でありま
すので本人に意欲と能力がある人が
74歳まで働くことになれば、なんと
2040年には世界最高になります。

ここで大事なのが、74歳まで元気
で働く空間を作ることができるかど
うかです。平成24年から埼玉県は7
つの市で健康長寿プロジェクトを実
施しています。市町村国保会計は約
360億円の赤字を出していますが
黒字会計になればと思っています。

埼玉県の場合は、人口構造・地理
上の課題・歴史的課題の三つを踏ま
えると、やる事が見えてきます。今で
も全国ランキングで若い方から6番
目、75歳以上の割合が沖縄県に続い
て2番目に少なく、65歳以上の割合
も全国で4番目に少ない。しかし高
齢化の伸び率は全国で1位です。医
療費も日本で2番目に少ないです
が、人口も多いわけですので急速に
高齢化し医療費の総計費の伸び率は
2番目です。

医療・介護分野や教育を含め人手
産業です。団塊の世代の人達が大量
に引退し、少数の若い人たちが働き

「鳥の目」で物事全体を見る
埼玉県の場合は、人口構造・地理
上の課題・歴史的課題の三つを踏ま
えると、やる事が見えてきます。今で
も全国ランキングで若い方から6番
目、75歳以上の割合が沖縄県に続い
て2番目に少なく、65歳以上の割合
も全国で4番目に少ない。しかし高
齢化の伸び率は全国で1位です。医
療費も日本で2番目に少ないです
が、人口も多いわけですので急速に
高齢化し医療費の総計費の伸び率は
2番目です。

盛りになるので、当然に人手不足と
なります。これらの人達の安定的な
収入や人から尊敬される仕事だとい
う価値観を与えていかないと定着し
ないと思います。社会的に認められ
る制度を作っていかなければなりま
せん。また企業誘致も戦略的に考え
ていかなければなりません。

「鳥の目」で物事全体を見つめて行
くと、何をしたら良いか課題を見つ
けることができます。それぞれの市
町で課題が違いますが、県の職員も
皆さんと一緒に課題を見つけて対応
して行ければと思っています。

上田知事の情熱あふれる講演を拝聴
し、大変勉強になりました。今後の議会
活動に生かして参りたいと思います。



講演終了後、上里町議会議員2名、本庄市議会議員1名、美里町議会議員1名から質問があり、わかりやすく回答していただきました。

沓澤 幸子



問 高校卒業まで医療費を無料に！

答 いち早くやっていければと思っているわけですので検討したい

質問1 少子化対策と子育て支援について

問 町の長期計画である合計特殊出生率を1.8に引き上げるには、安心して子どもを生み育てられる支援が必要です。親の強い願いや、少子化と貧困等の対策として子ども医療費を高校卒業まで無料にする自治体が増えています。県北でも、小鹿野町・横瀬町・長瀬町・皆野町・寄居町・熊谷市で実現し、深谷市も実施が決定しています。上里町でも実現を。

答 子ども医療費支給額は、3年間の平均では1億1400万円、このうち町単独事業額は8300万円です。高校まで拡大した場合1880万円程が見込まれます。町でもいち早くやっていければと思っているわけですので検討したい。

問 「乳幼児おむつ等購入費」は1歳までに、おむつ等を購入したレシートを提出して、1万円が支給される制度ですが、寄居町は、第1子1万円、2子

2万円、3子以降5万円の「子育て支援交付金」を実施、北本市は「おむつ購入クーポン券35袋分」を交付しています。対象年齢や補助の増額などの改善を。

答 全ての方に喜んでいただく制度にすることは重要であり、窓口で意見を聞きながら研究していきたい。必要であればレシートの添付は考えてみたい。支給額の増額や支給対象年齢の拡大は、近隣他市町村の類似事業等も調査し研究したい。

質問2 就学援助金支給について

問 文部科学省初中等教育局長の、3月31日付通知で、援助を必要とする時期に「新入学児童生徒学用品費等」を支給出来るように。また、支給額の単価の増額も示されました。町は2017年度から準要保護者に対しても増額を補正で対応し、2018年度からは3月支給を実施することについて。

答 町では要綱改正の趣旨を踏まえ、今月支給の準用保護児童に対し、増額された金額での支給を予定しており、予算措置等を検討します。新入学児童生徒学用品費等は、2018年度（H30）分以降の支給時期については改正の趣旨を踏まえ見直したい。

質問3 生ゴミの減量について

問 日本の一般廃棄物の約2千万トンは食品廃棄物で、その内の約50%が家庭から出る生ごみで、1人1日約200グラムと言われています。

水分を含み、悪臭や焼却炉での処理コストの増大など厄介な「生ごみ」を気軽に処理できるのが、神奈川県葉山町で開発されたキエーロです。黒土の中にいる微生物が「生ごみ」を分解するため、虫の発生や臭いがないという優れものです。県も昨年の実験結果をホームページで紹介しています。飯能市や

東松山市は、市が補助をしてキエーロの販売を開始しています。上里町も、ふれあい祭りで紹介するなど「上里キエーロ」の販売普及に取り組むことについて。



生ごみを処理する「キエーロ」
(東松山市ホームページより)

答 県や先進自治体から情報収集等を行い研究したい。導入する場合は、町民モニターを募集し、箱も地元の大工さんで作っていただくことも可能だと思う。県の実験状況を聞きながら判断し、モニターを募集していきたい。

※第7期介護保険事業計画についても質問しました。

齊藤 崇



問 放課後児童クラブの待機児童が解消されていないが

答 平成31年度に「0」にする目標を定めた

質問1 子ども・子育て支援に
ついて

問 いまの支援施策では十分と思う、上里町独自の施策を掲げては。

答 地域子育て支援拠点事業を崩美子育てサークルもえみっこクラブを実施。また、子育てサロン・いどばた会議に委託し、つどいの広場を実施、子育ての問題等相談できる場所の提供。更に、社会協議会に委託し、ファミリー・サポートセンター事業の実施、登録会員による育児の援助活動を実施、放課後の預かりや習い事、学童保育への送迎などを行っている。

問 第5次総合振興計画に掲げている合計特殊出生率の平成31年度目標値1.25について、どのような施策か。

答 不妊治療への支援を初めとした母子保健事業等の推進、出会い・婚活サポート事業の展開等による少子化対策の推進等を施策目標として掲げている。また、総合戦略においては、出

会いと婚活の支援、妊娠と出産の支援、子育てし易い環境の整備、未来を担う子供たちへの教育支援の4つを平成31年度の達成に向けて取り組んでいる。



問 一部の自治体で実施している少子化対策の一環として学校給食費の第二子以降を無料にしては。

答 学校給食は学校設置者に提供義務があること、並びに給食費は保護者負担を原則とした考えである。また、上里町内の学校給食は、本庄上里学校給食センター方式であるため、給食費の無料化（第二子以降）は難しいと考える。

問 町内に町営公園等の支援施設が乏しいと思うが。

答 町の中心部に遊具のある大きな公園はない。多くの小学生、町民の皆様から公園整備に関する要望がたくさんあった。このことを踏まえ、平成27年度から1号公園として駅南街区公園（群銀上里支店の東側）の工事に着手し、今年度秋に完成予定です。内容については、幅広い年齢層、障害者にも対応した施設として考えている。また、3号公園として規模は小さいものの、役場庁舎南側に今年度から着工、早期完成を目指している。



質問2 中学生海外派遣事業
復活について

問 平成23年度まで続いた事業、何故終息したのか。

答 この事業は現地で体験活動を通して文化交流親善友好を深めるなど人材育成を図る目的で平成3年度に開始も経費、選考方法、派遣先選定などおおくの課題があり、終了した。

問 国際性を育む教育、学びとふれあいの町宣言の観点から復活しては。

答 教育長 町では、基本目標である全ての子どもたちが国際性を育む観点から全ての小中学校にALTを平成13年度より配置、英語に親しみを持ちグローバル社会に対応できる資質、能力を育成している。派遣事業終了後は校内外の研究参加費用として中学生体験研修参加費補助金制度を創設した、海外10万円、国内5万円を上限に予算の範囲内で補助。

戸矢 隆光



問 3月12日以降の免許制度の改正により今後免許を取得する人は消防車両が運転できないことになりました

答 近隣市町の動向を鑑みながら、準中型免許取得のための対応を慎重に検討したい

質問1 職員採用について

問 若いときに首都圏に仕事を求めていった人が様々な事情によりふるさとに戻ってくる戻ってこざるを得なくなつた人などへUターン者の採用枠を。様々な職種を経験し地元に戻り地域のために貢献したいと考える人を受け入れることも人口減対策になるのでは。

答 町外からのUターン採用枠を設定し、上里町への居住条件等を募集要項に示すことは調査研究が必要になると思います。総務省からも地方公共団体の職員の公正な採用についての文書を送付されておりますので慎重に検討したい。

問 Uターンで様々な経験をした人を毎年1人か2人の採用を。

答 Uターンインターンを初め移住・定住者向けの試験を実施している自治体がいくつかあるわけで埼玉県などの指導、助言をいただきながら採用試験が

実施可能か慎重に検討したい。

質問2 職員の研修について

問 現在の職員研修は他の自治体と合同で行うものが主であります。企業を経験している人は民間ではなくてはならない経験をしており、学卒者ではそれらの経験をする機会がなかなか少なく上里町内の企業と連携をしながら職員を企業に一定の期間派遣をして研修が出来ないか。

答 町内企業の派遣につきましては、研修の意図を明確にして協力企業の把握、職員の受け入れ、事務所側の意向など確認し職員の研修については調査研究をしたい。

問 今後の取り組みについて。

答 最近の職員の接遇態度が非常に良くなったとのこと。住民の方から言われている部分もあるわけでありますが民間企業の皆様とはまたひとつ違った部分もあるとおも

うわけであり、今後とも積極的に企業だとかスーパーにも派遣していきたい。



上里町消防団第四分団のポンプ車両

質問3 消防車両について

問 3月12日以降の免許制度の改正により、従来普通免許で運転できた消防車両が車両の総重量、最大積載量における区分の改正に伴い今後免許を取得する人は運転できないことになりました。これまでどおり運転者を待つことなくスムーズに展開できるように運転資格者の適正配置につき今後検討

していく必要があるのでは。
答 今回の法の改正により現在上里町消防団が所有する車両総重量が3.5トンを超えてくるため3月12日以降の普通免許取得者では運転が出来なくなります。消防団に入団されたとしても車両が運転できないことから、災害時の消防車両の迅速な消火活動に支障をきたすことが予想されます。現在の状況を調査し埼玉県内の動向及び近隣市町の動向を鑑みながら、準中型免許取得のための対応を慎重に検討したい。

問 いざ消防車両に乗ろうとしたら乗れなかった。それらを危惧するところでありますがそのことがないように計画的に免許を取った者について補助を出していただくとかしていただけないか。

答 第4部員団の車両など運転できない方がおるわけで今は分団と消防団の皆様方と相談させていただき、どの程度補助を出せるのか少し検討してみたい。

飯塚 賢治



問 トイレの洋式化を加速させる事は大変重要

答 全体的な流れの中から早めに洋式化へ向けた取り組みを計画的にやる必要がある

質問1 新入学児童・生徒学用品費等」の支給時期について

問 就学援助における特に重要保護児童・生徒を対象とする新入学児童・生徒学用品費の入学前からの支給に対応するための予算措置、システムの変更、要綱等改正について、今から確実に準備を進めることが必要と考えるが町の見解は。

答 教育長 平成30年度以降の支給時期については現在のところ毎年2月におこなわれている新入学児童説明会に間に合うことが望ましいと考えている。また当初予算及び6月補正での計上は間に合わなかったが今後の就学援助費全体の支給動向を見据えた上で予算措置等を検討する予定。要綱改正などに関しては支給時期の見直しに合わせ準備してまいりたい。

問 準要保護の認定基準は各自治体によって違うということ

とですが、今回の改正により認定基準を変えたいということはないので。

答 教育長 現在の認定基準を変える考えは、今は持っていない。継続していきたいと考えている。

質問2 学校トイレの洋式化について

問 上里町の小中学校の現状では、洋式化はどのくらいなのか。

答 教育長 平成28年度4月時点で5小学校平均洋式化率は37.4%、2中学校の平均洋式化率は57.3%、全小中学校では、45.2%となっている。

問 全国的に学校のトイレは築年数が古いものが多く、清掃だけでは解決できない臭い、汚い、暗いなどの悩みをもっている学校が数多くある。また依然として和式トイレが多い小学校が半数以上を占めているという調査があるが、児童生徒の健康面、精神面からもトイレの

洋式化を加速させていく事は、大変重要だと考えるが。

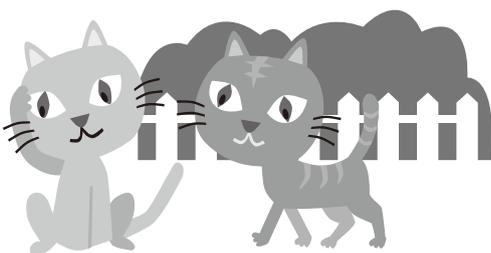
答 教育長 洋式化率の向上については、子ども達の学校生活をより快適に過ごしやすいするための1つの取り組みとして、洋式化は必要な事と考えている。しかし校舎の老朽化という課題もあるので老朽化対策、修繕計画と整合を図りながら、全体的な流れの中から早めに洋式化へ向けた取り組みを計画的にやっていく必要があると考えている。

質問3 犬猫の殺処分削減について

保原町の地域で野良猫を数多くみかけるため、モデル地区として名乗りを上げてもらえないか。

答 「地域猫」の活動は、地域の方全員の意見が一致することが必要になるため、活動を実施する前段階で多くの課題が発生するようです。また活動を実施してからも新たな課題が発生するようです。しかし、地域の皆さんが情熱に燃えて動物愛護のために一生懸命やっていただけという事であれば、県のほうに話を進めてまいりたい。

問 犬に比べて猫の殺処分数の削減率が伸び悩んでいる。そこで野良猫の繁殖を抑えることが有効という事で、近年ボランティアや自治会などが、野良猫に避妊手術を行って増えないようにした上で、決まった場所にえさ場やトイレを設置して地域ぐるみでその一生を守る「地域猫」という活動を神



『地域猫』という取り組みを

仲井 静子



生活習慣病の予防及び改善につながる食育の推進について

町民一人一人が食についての意識高め、健全な食生活を実践できるよう食育を推進していく

質問1
子どもの食育の取り組みについて

問 中年以降の病気だったはずの生活習慣病、近年子どもの発症例が増えている他に予備軍の子どもが多数いる。コレステロール値の上昇・肥満・高血圧などの危険因子を持った子どもは10人中4人。その原因は食事や生活環境の変化や運動不足です。子どもの時期からの望ましい生活習慣を身につける取り組みを。

答 保護者への指導、相談や、子ども達に対して何をどう食べるかと言う事を正しく学び、身につけていける事業を推進していきたい。

病の予防と改善につながる食育の推進事業をどのように展開するののか？

答 町では、要支援認定者の個々の課題を明確にし、本人の能力に応じて自立した生活が送れるよう地域ケア個別会議を定期的に開催し、管理栄養士・理学療法士などの専門知識を中心に支援方法を検討している。又、平成29年5月訪問栄養指導をスタート。この事業は介護予防・日常生活支援の短期集中訪問サービスをし

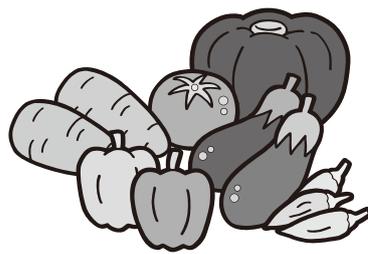
個々の栄養課題に応じた相談や助言、バランスのとれた食事指導が無料で受けられる。

質問3
血糖値スパイクの取り組みについて

問 普段は正常だが食後の短時間だけ血糖値が急上昇するという現象。日本全体で血糖値スパイクを生じている人は、推定1400万人以上。血糖値スパイクの繰り返しで体内の重要な血管を傷つけ動脈硬化・脳梗塞・心筋梗塞・認知症・癌のリスク

を高める。血糖値を正常に戻す為の予防対策として、緑黄色野菜を積極的に摂取するレシピ作成を提案する。

答 日本女子体育大学と連携し、運動だけではなく栄養バランスのとれた食生活を実践できるようなパンフレットの作成等も検討して行きたい。



予防対策には緑黄色野菜を摂取

質問4
町のホームページについて

問 平成28年12月にリニューアルした町のホームページは各課でサイトを操作可能にし情報発信や更新も簡単に出来るようになってきているが、運用の仕組みと体制が整っていない。リニューアル

アルしたのに以前のまま。

答 12月リニューアルしたが、前のホームページの内容をそのまま移行し記載してる。古いものが残っているとのご指摘ですが、その点については、今後担当課の総務課のほうで、各課を指導し改善を図ってまいります。

問 インターネットの普及によって現在は調べたい自治体サイトにアクセスし手軽に情報収集してる。このような状況の中、全国に向けてどのようにネットを活用していくのか、自治体サイト運営に関する方針やプラン・ノウハウと方向性を示しながら改善を図って頂きたい。

答 平成29年1月以降は、以前のアクセス数に比べ多くの方々が御覧頂いている。内容的にはまだまだ充実させなければならぬ部分もある。今後もし引き続き職員に対し研修を行い、情報を発信して町の魅力を感じて頂ける親しまれるホームページづくりをめざしていきたい。

植原 育雄

問 子育て支援センターの建設について

答 子育て支援センター事業の実施等、保育所に必要な付加機能についても考えていきたい

質問1 子育て支援について

問 核家族化が進み、親からのアドバイスを受けられず、若いお母さん方は子育てに悩みノイローゼになるケースが増えています。町では町立保育園の建設が予定されているが、同敷地内に子育て支援センターを建設することについて。

答 町立保育園の建設予定についてですが、建設検討委員会で子育て支援センターの実施等、保育所に必要な付加機能についても考えていきたい。

問 共働き世帯を支援する為の送迎保育ステーション事業について。

答 千葉県流山市や県内他市町の実施状況等を調査研究し、保護者の通勤事情等も加味したうえで設置できるか検討したい。

質問2 小中学校教諭の勤務実態について

問 国の調査では小学校教諭の34%、中学校教諭の58%が厚生労働省の過労死ラインに達したとのことですが、町内小中学校教諭の勤務実態について。

答 教育長 過労死ラインと言われる一カ月80時間以上の超過勤務者は小学校で4%、中学校で46%となっています。現在、学校の負担軽減対策を実地していますが、今後も引き続き、関係機関と連携し、長時間労働問題の解決を目指していきたい。

質問3 高齢者の交通対策について

問 町内巡回バス強化型のコミュニティバスとしてのこむぎっち号が運行されて一年が経過しました。検証して改善すべき点があれば改善していくべきではないか。

答 乗車人数について、中央ルートはマイクロバス2台で年間9118人、一カ月760人、一日30人、北部ルートはワゴン車1台で年間1265人、一カ月

105人、一日4人、南部ルートはワゴン車1台で年間1600人、一カ月133人、一日5人でした。

バス停の利用状況は、比較的多くの利用者がいる一方で特に北部ルート及び南部ルートの利用者が少ないバス停もあります。

乗り換え状況は、中央ルートに比べて北部ルートと南部ルートは本数が少ないことから乗り換えの利便性について課題があります。

今後、バス停の設置場所と共に、乗り換えの利便性についても住民ニーズを把握、分析し、各ルート間はもとより他の公共交通機関等との乗り換えについても、利用者の利便性向上を図るための検討を進めたい。

問 高齢者の交通手段について、高齢者の交通事故が多いことで高齢者の運転免許証の返納が話題になっていますが、運転免許証の返納後のサポート体制が大事ではないか。

答 高齢者の運転免許証の自



主返納を一層進める為にも、返納者へのサポート体制を整えることが非常に重要だと考えており、こむぎっち号においても返納者に対する支援として優遇措置ができないか検討しています。優遇措置の実施については、上里町地域公共交通活性化協議会で協議し、承認して頂く必要があります。

本町においても、一層の高齢化の進展が見込まれていることから、高齢者が安心して便利に外出することができるよう環境整備する為、調査、検討を進めて参りたい。

新井 實

問 水道水について

答 水道水としての水質基準値を満たしており、残留塩素は毎日管理している

質問1 北朝鮮の弾道ミサイル発射について

問 北朝鮮の弾道ミサイル発射実験の不測の事態に備えて各自治体が職員対応マニュアルを整備したり、住民の避難訓練を実施することについて。

答 職員対応マニュアルについては、羽生市のように弾道ミサイル専用のマニュアルは整備していないが、災害発生時の上里町職員初動マニュアルを運用して対応する。弾道ミサイルを想定した住民避難訓練については発射後から着弾までの時間が極めて短いことから、とにかく付近の頑丈な建物へ避難するよう周知を図る。避難訓練の実施については今後情報収集に努め判断していきたい。

質問2 教員勤務調査について

問 公立小中学校教諭の平日勤務時間が厚生労働省の「過労死ライン」に達し、過酷勤務の是正策検討の必要性について。

答 教育長 埼玉県においても平成28年度教職員を対象に勤務状況調査を実施しており、勤務時間を除く在校時間の1日当たりの平均が小学校では2時間48分、中学校では3時間2分という結果になり、教職員が長時間在校している実態が明らかになった。今後、教育委員会としては、町内の小中学校の教職員が負担を軽減でき、子どもと向き合う時間を確保し教員一人一人が持っている力を高め、発揮できる環境を整えていきたいと考えている。

質問3 教育勅語について

問 道徳教育の中で教育勅語の一部分を教材として用いることについて。

答 教育長 学校における道徳教育については、昭和22年日本国憲法のもとで施行された教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本理念に基づいて行われている。このような背景から教育勅語を道徳教育の経典として復活させることについては、現在考えていません。

質問4 町営水道の飲料水について

問 町営水道に含まれているカルシウム類や残留塩素等の低減について。

答 日常生活で使用するやかん、ポットに付着する白い物質については水道水に含まれるカルシウム及びマグネシウム物質、いわゆる硬度が高い原因により起きる現象であり、ご家庭での対策としては、ご使用後は水を入れたままにしないで水気を拭き取ることや、クエン酸や市販されている洗浄剤を使用したり、ステンレス素材のやかんにすることも有効と思われる。消毒剤の低減について

質問5 ふるさと納税について

問 ふるさと納税は、善意の寄付が制度の出発点であり、地方の財政を助け活性化を後押しするものであり、制度本来の趣旨を思い起こすことについて。

答 ふるさと納税の寄付総額及び返礼品の仕入れ価格については、平成28年度の寄付金総額は132万円、それに基づき返礼品の仕入れ価格の割合、いわゆる返礼品割合は約35%。本町でも返礼品の調達価格を見直すための協議を進めている。



五明にある第二浄水場

7月10日・12日の両日、町内7つの小中学校を訪問しました

学力面では各学校とも昨年度と大きく変わった点はなく、教職員が一丸となって学力向上に尽力しているようです。児童・生徒も勉強・運動と落ち着いて取り組んでいるようです。いじめ・不登校問題も大きな事件はなく、教職員で対処しているようであります。

①トピックス

上里北中の生徒が県立浦和高校に進学し、元気に通学していること、スポーツでは陸上競技等で輝かしい成績を収めているようです。

上里中学校においては、生徒は目を輝かせ落ち着いていて、一つひとつ成果を上げているようです

七本木小学校では昨年に引き続き「交通安全子供自転車埼玉県大会」を連覇と成果をあげております。

上里東小学校では、昨年度に引き続き48名の外国人児童が通学、児童・保護者に対して複数の外国語が必要となり、大変なご苦労が伺えます。

②施設面は

上里中学校を除き老朽化が進み、特に床、外壁等の劣化が著しいように思います。また、昨年度も指摘した通り、七本木小学校のプール損傷についてはその後の対応が遅く、今年度のプール授業は無く、これに代わる授業を計画するようです。上里東小学校のプールにおいても同年代に建設されたわけで、プールの底の劣化が見られ、教職員でコーティングの応急処置で難を凌いでいるようです。

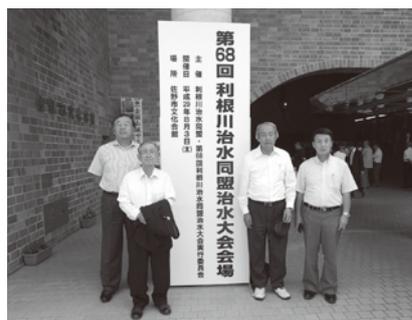


上里中学校を除いた各学校は老朽化が進んでいます。一度にリニューアルするとなると莫大な経費が必要となるわけで、計画的に対応することを要望します。

今回はマスコットキャラクター『さの丸』で有名な栃木県佐野市文化会館で開催され、所管する総務経済常任委員4名が参加をしました。

一全国各地で大きな被害

今年は梅雨の時期は例年に比べて異常気象により全国各地で大きな被害が相次ぎました。6月下旬には九州北部の朝倉市一帯を襲った豪雨により30人以上の死者が出て依然として数人の人が行方不明になっています。また7月の中旬には秋田県大仙市や仙北市、新潟県佐渡市などを襲った集中豪雨などにより、河川の決壊や土砂崩れなどが相次ぎ大きな被害が出ました。一方では都民の水瓶である荒川水系で雨不足による23年ぶりの取水制限が出されました。



一カスリーン台風から70年

今年はカスリーン台風から70年。今回で第68回を数える利根川治水大会は昭和22年9月に台風によって甚大な被害が出たことにより関東各県の自治体により治水同盟を発足し、それを契機に各方面に予算の陳情や請願などの要望活動を行ない、河川や堤防などの整備など行ってきました。今年度の大会の講演はNPO法人日本水フォーラム代表理事・事務局局長竹村公太郎氏の『利根川東遷の謎』と題した特別講演がありました。

大会の最後に流域住民の生命・財産安全確保と福祉増進のため、国会並びに政府に対し利根川水系治水・利水事業の促進を強く要望する大会宣言を採択し閉会をしました。



議会日誌

6月

- 5日 6月定例会初日(開会、町長の行政報告、一般質問)
- 7日 全員協議会
- 7日 議案審議(29年度補正予算他)
- 7日 総務経済常任委員会
文教厚生常任委員会
- 9日 定例会最終日(請願等採決)
- 29日 児玉郡市広域市町村圏組合議会

7月

- 4日 埼玉県町村議会議長会視察研修(~5日)
- 10日 文教厚生常任委員会学校訪問(12日)
- 13日 社会を明るくする運動講演会
- 18日 臨時会
- 18日 議会だより編集委員会
- 21日 国道17号建設促進期成同盟総会
- 28日 明るい町づくり意見発表会
- 29日 防災フェスティバル

8月

- 2日 児玉郡町議会議員前期研修会
- 3日 児玉郡市広域市町村圏組合議会視察研修(~4日)
- 3日 利根川治水同盟治水大会
- 8日 本庄上里学校給食組合議会
- 10日 議会だより編集委員会
- 17日 議会運営委員会

9月定例会を傍聴しませんか!

定例会は、9月4日(月)に開会の予定です。
なお、一般質問は4日(月)を予定しています。

9月定例会一般質問一覧

	氏名	質問の要旨
4日(月)	新井 實	1 老老介護について
		2 医療・介護費を抑えることについて
		3 民生委員のサポートについて
		4 街路樹の種類の変更について
		5 上里北中学校の改修について
	仲井 静子	1 高齢化社会を迎え、町の取り組みについて
	戸矢 隆光	1 農作物の鳥獣等の被害について
		2 町のPRについて
	飯塚 賢治	1 災害時支援協定について
		2 障害者を支援する施策の促進について
		3 社会性発達評価を自治体検診で行う事について
	沓澤 幸子	1 平和事業について
2 グランドカバープランツ計画について		
3 公共施設等総合管理計画について		

集記 編後

今年、梅雨期は、東日本地区ではほとんど雨が降らず、荒川水系のダムの水不足が深刻化し、水量が通年の6割程度とのこと。
一方西日本の九州北部地域では7月5日〜8日のゲリラ豪雨で福岡県朝倉市では3日間で650ミリの集中豪雨にみまわれ、土砂災害や川の氾濫で家屋が流されたり、その下敷きとなり福岡県と大分県で死者34名、不明者7名を出し、警察・消防・自衛隊で現在も



今年、梅雨期は、東日本地区ではほとんど雨が降らず、荒川水系のダムの水不足が深刻化し、水量が通年の6割程度とのこと。

議会だより編集委員会

- 委員長 新井 實
- 副委員長 仲井 静子
- 委員 植原 育雄
- 岩田 智教
- 齊藤 崇
- 戸矢 隆光

懸命な搜索活動が続いています。
気候が完全に温暖化し異常気象になり、全国いたる所で自然災害を起こしています。明日は我が身ということも念頭に置き、上里町でもどんな災害がいつ起きても対応できる体制作りを急ぐ必要があると思います。

議会を傍聴!

上里町議会では、皆さんの傍聴をお待ちしております。
議会開催日に役場4F傍聴受付窓口までお越しください。

議会を動画で!

本会議の一般質問の様子をインターネットで録画配信しています。
また、本会議開催中は、役場1階町民ホールのテレビで生中継しています。

議会を読む!

「上里町議会だより」は、3月、6月、9月、12月の年4回発行しています。

